

# 第5回（令和4年度第1回） 流域委員会での指摘事項とその対応

令和5年12月18日

国土交通省 中部地方整備局  
天竜川上流河川事務所  
浜松河川国道事務所  
三峰川総合開発工事事務所  
天竜川ダム統合管理事務所

# 第5回（令和4年度第1回）流域委員会における指摘事項とその対応

項目	意見	対応
天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検について	<p>指摘事項とその対応の積み重ねが重要である。P3に記載があるように、進捗状況の点検や事業評価の議事の繰り返しだけでなく、様々な観点から、流域委員会や整備計画の軸に合わせて検討し、議論できるようにしていただきたい。 【辻本委員長】</p>	<p>委員会での指摘や、事業の進捗、気候変動による外力の増大、社会状況の変化等を踏まえ「河川整備計画の見直し」の検討を実施する。</p>
	<p>天竜川は狭窄部が多く流量の制御が困難な河川であり、特に、小渋川や三峰川のような大きな支川の治水対策を進めていく必要がある。また、美和ダム建設以降、相当な土砂堆積が進んでいるため、三峰川上流部での治水対策が必要ではないか。 【織井委員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の整備計画メニューは、資料3の通り、支川の治水対策も考慮した計画となっている。</li> <li>・三峰川的美和ダム上流では、貯水池直上流の堆砂が進行しているが、さらに上流の河道に関しては比較的変動が小さい。</li> <li>・美和ダムの堆砂については土砂バイパス施設やストックヤード施設などを整備・運用することで軽減を図っている。</li> <li>・三峰川上流部の治水対策については、気候変動対応を含む基本方針改訂の中で検討している。</li> </ul>
	<p>現在、慣行水利権から許可水利権に変更され、水利権の許可権限は国交省が持ち、農業に関する指導は農水省が行っている。近年、稲作からより収益性の高い施設園芸への転換がすすんでおり、水利用の状況に変化が生じている。このような背景を踏まえ、農業用の利水という問題を考えていただきたい。 【織井委員】</p>	<p>水利用の変化も含め、許可水量の更新について速やかに審査するように努めていく。</p>
	<p>河道内樹木（特に、ハリエンジュ）の伐採を実施しているが、ハリエンジュは伐採しても萌芽率が高く、10年後には再繁茂してしまう。今後は、伐採と同時に伐根する考えで取り組んでいただきたい。 【織井委員】</p>	<p>自然再生事業の中でも伐根を実施するなどの対策を進めている。今後、再萌芽の防止に向けて試験施工を実施していく。</p>
	<p>計画の進捗について、河道掘削と樹木管理は、再堆積と再繁茂と常にセットになる。したがって、計画の進捗と維持管理との連携も重要なポイントである。改修効果の評価については、進捗率という観点以外でも、流下能力として現状を把握し続けることが重要である。 【戸田委員】 治水事業の進捗では、実施した工事内容だけでなく、現在の河道の流下能力の状態や施工箇所における危険度の軽減状況、適切な維持管理の評価などの説明が重要である。 【辻本委員長】</p>	<p>流下能力が低下した箇所は再堆積箇所と位置付け、優先順位を設定しながら維持掘削を進めている。樹木再繁茂対策として、天竜川下流では伐根を基本とし、地盤の切下げや踏み荒らし等の対策も検討中である。 また、ALB測量等により面的な測量を実施し、河道の経年変化や樹木の繁茂状況を確認している。 今回の説明資料では、近年、改修を実施した代表断面で水位の低下効果（現行整備計画流量流下時）を整理した。</p>

## 第5回（令和4年度第1回）流域委員会における指摘事項とその対応

項目	意見	対応
天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検について	近年は生物分類が進んでおり、類の表記については、整備計画策定時と名前が変わっている生物も多い。今後の検証のためにも正確に示しておく必要がある。 【板井委員】	今後の整理では正確に記載するよう留意する。
	天竜川上流(三峰川合流点下流)のR2、R3年のSSが高い傾向について、美和ダムの排砂バイパスの影響はないか。また、SSの値はいつ時点の値なのか。 【四方委員】	美和ダム土砂バイパスはR2年以前から運用しており、バイパスによる影響であると考えていない。R2年は長雨の影響、R3年は大きな出水による攪乱による影響であると考えている。SSの値については年間の平均値を示している。
	今年の台風15号では静岡市、浜松市で非常に強い降雨強度の降雨が発生した。近年、雨の降り方が変化しているため、短時間の強雨が集中的に天竜川流域で発生した時の現行計画への影響を評価しておいた方が良い。また、近年の豪雨被害では流木による被害が多数報告されている。台風15号でも天竜川の支川二俣川で流木が橋桁に詰まり越水被害が生じている。現計画には、流木による影響は含まれていないが、今後議論していただきたい。 【岩田委員】	台風15号では天竜川では大きな被害は生じていない。現在、気候変動を踏まえた現行計画の見直し検討を進めている。流木対策についても、林野庁などを含めて、上下流連携して取組を検討していく。
	子供と川の生物観察をしている中で、カワムツが近年急激に増加しており、それに伴いアブラハヤが減少している。カワムツが重要種として挙げられている意味合いは。カワムツは、日本の分布の東限が静岡県にあり、要注目種という位置づけで天竜川の重要種に設定されている。 【中村委員】	資料については確認種数のみの記載であるため、今後、確認数の経年変化に関する情報も整理し提示していく。
	近年の温暖化による影響について、土砂災害の頻度と洪水の関係、地質との関係に関する情報があれば教えていただきたい。 【中村委員】 気候変動は、100年後の長期的な影響としてだけでなく、すでに事態が起こっていることに対してどう対応していくかについて、天竜川流域としてどう捉えていくかをしっかり議論できるように準備していただきたい。 【辻本委員長】	今後、気候変動により気温が2℃上昇し、降雨規模、頻度が増加することが想定されている。今後、流域委員会の中でもしっかり御審議いただけるように準備する。

## 第5回（令和4年度第1回）流域委員会における指摘事項とその対応

項目	意見	対応
天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検について	事前放流は、現計画策定以降に策定されたものであり、計画策定以降の新しい河川管理に関する事項についても、効果や課題を含めて報告していただきたい。 【織井委員】	事前放流の効果についても検討している。整備計画策定以降の新たな取り組みについても様々な場を通して報告していく。
	水質に関して、河川ごみが海洋ごみに関係すると言われている。マイクロプラスチック等のごみ問題の視点に関しても、流域委員会で検討していただきたい 【伊藤委員】	ごみ問題に関しても情報発信を行っていききたい。また、水質については、水生生物調査を通して子供たちに啓蒙活動を実施している。
天竜川総合水系環境整備事業	かわらんべでは、子供たちとイカルチドリ、コチドリ等を観察しているが、今後の樹林化の進行や砂礫河原の減少の影響で、イカルチドリ、コチドリの減少を心配している。 【板井委員】	自然再生事業では、再繁茂を抑制するために、冠水頻度が上がるように、また河床の礫が移動しやすいように砂州を切り下げ、維持できるように進めている。しかしながら、その効果は、出水の生起状況にも左右されることから、日々の巡視や河川水辺の国勢調査によって状況を把握する。
	外来植物の種数は頭打ちとなったが、外来植物の比率が増加していることに関しては、自然再生事業による影響があるのかもしれない。河原の植生は、水域と陸域の推移帯であり、生物が非常に多様な場である。樹林帯を削ることで、連続性が絶たれ、全体の植物の種数が減少したことにつながった可能性もあるため、慎重に検討した方がよい。 【板井委員】	外来植物の比率の経年変化に関しては、事業着手前の状況を示しているが、事業完了後も引き続き、河川水辺の国勢調査や日常の巡視で、状態を把握していく。

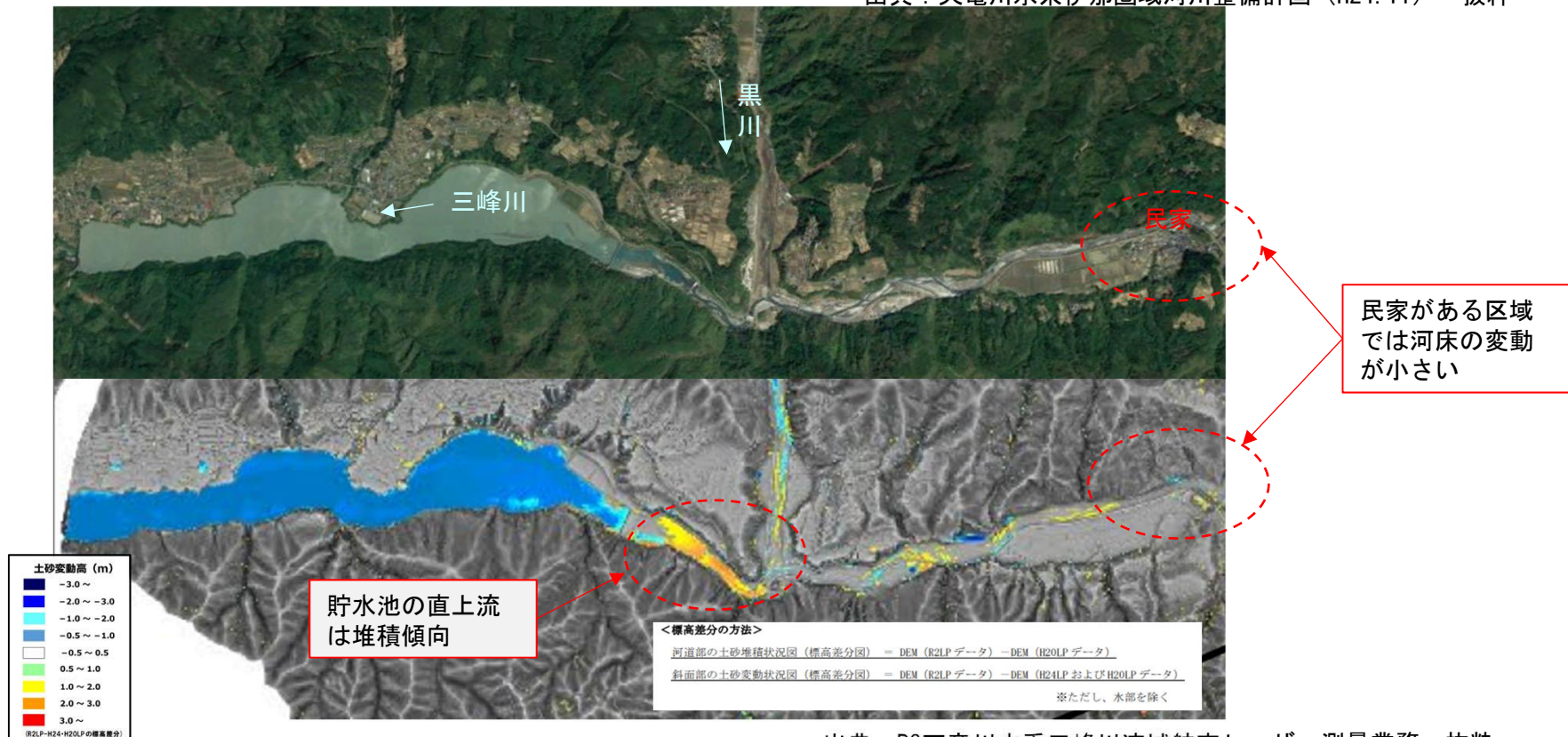
# 第5回（令和4年度第1回）流域委員会における指摘事項とその対応

- 美和ダム上流は長野県管理区間であるが、H24伊那圏域整備計画において治水メニューは位置づいていない。
- また、H20～R2のLP差分解析によれば、民家がある区域の変動量は小さく、喫緊の治水対策は必要ないことが想定される。
- しかし、美和ダムの堆砂が進行している現状を踏まえ、ダム下流の被害軽減を図るために、基本方針変更検討の中では新規の治水対策を検討している。

	区 間		河川延長 (km)
	左 岸	右 岸	
	上 流 端		下 流 端
猪の沢川	伊那市西春近宇猪の山4114番の335地先 同市西春近同字4114番の334地先	天竜川への合流点	3.150
尖石筋川	伊那市西春近宇木裏原4107番の4地先 同市大字東春近同字10641番地先	天竜川への合流点	5.109
永音筋川	伊那市西春近宇細ヶ谷3282番の50地先の市道橋	天竜川への合流点	2.520
戸沢川	伊那市西春近宇中原506番の1地先 同市西春近宇銭神原3221番の2地先	小戸沢川への合流点	1.700
三峰川	伊那市長谷浦国有林108林班地先 同市同大字国有林89林班地先	伊那市長谷長尾136番地のイ号の1地先 同市長谷黒河内字黒川端2873番地の2地先	25.420

三峰川（美和ダム上流）は長野県管理区間であり整備メニューは位置づいていない

出典：天竜川水系伊那圏域河川整備計画（H24.11） 抜粋



出典：R3天竜川水系三峰川流域航空レーザー測量業務 抜粋

# 第5回（令和4年度第1回）流域委員会における指摘事項とその対応

- 天竜川水系の既存の利水ダム等15ダムについて、事前放流による洪水調節可能容量の確保に関する天竜川水系治水協定を令和2年5月に締結している。
- 水害の発生防止等が図られるよう既存ダムの洪水調節機能の強化を推進する。

## ◆治水協定締結ダム一覧

ダム名	目的	管理者 (建設中は事業者)	有効貯水容量 〔千m <sup>3</sup> 〕	洪水調節容量(最大) 〔千m <sup>3</sup> 〕	事前放流による洪水調節可能容量 〔千m <sup>3</sup> 〕
美和	FNP	中部地整	20,745	16,200	2,189
小渋	FAP	中部地整	37,100	35,300	809
松川	FNW	長野県	5,400	3,300	2,548
片桐	FNW	長野県	1,310	890	420
横川	FN	長野県	1,570	1,420	258
箕輪	FNW	長野県	8,300	4,500	1,296
高遠	AP	長野県企業局	500	0	0
合計			74,925	61,610	7,520

ダム名	目的	管理者 (建設中は事業者)	有効貯水容量 〔千m <sup>3</sup> 〕	洪水調節容量(最大) 〔千m <sup>3</sup> 〕	事前放流による洪水調節可能容量 〔千m <sup>3</sup> 〕
新豊根	FP	中部地整	40,400	10,500	38,178
泰阜	P	中部電力(株)	1,553	0	1,925
平岡	P	中部電力(株)	4,829	0	5,577
岩倉	P	中部電力(株)	300	0	119
佐久間	P	電源開発(株)	205,444	0	116,000
水窪	P	電源開発(株)	22,836	0	11,500
秋葉	AWIP	電源開発(株)	7,750	0	11,800
船明	AWIP	電源開発(株)	4,157	0	12,700
合計			287,269	10,500	197,799

